

### 1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2890900109		
法人名	社会福祉法人 兼誠福祉会		
事業所名	グループホームメヌエット		
所在地	兵庫県西宮市浜脇町4-33		
自己評価作成日	平成29年7月1日	評価結果市町村受理日	平成29年8月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ兵庫福祉調査センター		
所在地	尼崎市南武庫之荘2丁目27-19		
訪問調査日	平成29年7月26日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>利用者の尊厳と自由を尊重し、個人個人のニーズに沿った質の高い援助を提供します。利用者の皆様がゆとりのある空間の中で「我が家」と感じて頂き、楽しく過ごしていただける環境作りを行います。また、適切なアセスメントに基づき、何ができるのかを見極めた自立支援を提供致します。</p>
---

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>特養・デイサービス等が同一建屋に併設された複合施設である。入浴設備等複合施設の利点を活かし、利用者に喜ばれている。一時期職員の確保が出来ず課題となっていたが、施設長と管理者の努力により、改善されつつある。いい季節や利用者の外出の希望には、職員シフトの工夫により支援しようと努めている。主だった職員は当施設の経験も長く、職員相互にいい関係が作られつつあるように感じる。周辺は環境に恵まれた住宅地に立地しており、施設が「津波避難ビル」の指定を受け、地域との連携・関係づくりに取り組もうとされている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	生活者様に「ゆとり」のある時間の中で我が家と感じて頂き、楽しく過ごして頂けるよう環境作りを行っています。この理念を管理者、職員とともに共有し日々実践している。	事業所理念を「我が家と感じて楽しく暮らして頂ける環境づくりをすること」として、5Fの施設入口に掲示するとともに、毎月の全体会議等で振り返り、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域に根付いた施設を目指しています。イベントなどレクリエーションを通じて地域住民との交流を行っている。	運営推進会議に出席して頂いている民生委員の方から地域の情報を得て、公民館や地域のイベントに参加している。2つの保育園とは夏祭りの招待や事業所への園児達の訪問等で交流している。トライやる・ウィークの中学生やボランティアを受け入れている。	近くの保育園や学校との交流等を通じて、地域とのつながりは深まっている。総合福祉施設のパワーを活かし、施設のイベントや地域の行事等への参加を通じ、地元自治会とのつながりがより強固になることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の相談、申し込みに来られる方や電話での相談にも対応させて頂き、出来る限りのアドバイスもさせて頂いています。地域の方々への認知症教室も開催していきたいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回「運営推進会議」開催。行政、地域住民代表、知見を有する者、家族様代表の方々に出席頂き、運営状況を報告し意見を伺いながらサービス向上につなげている。	家族代表、民生委員、他グループホーム代表、市地域共生推進課職員の出席の下、2か月1回開催され、そこでの意見や要望を運営に反映するように努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	集団指導、監査の現地指導等を通し適切な運営をおこなっていただけるよう指導を受けています。申請書類(加算等)についても担当者に連絡をとり作成をおこなっている。	市の職員に運営推進会議に出席して頂き、様々な情報やご意見を頂いている。年毎に出席して頂く担当課が変わり、いろいろな角度からの意見が頂ける。日常的にも連絡を取り、情報交換や相談に乗って頂いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関して法人内研修でも取り組んでおり周知徹底は図っている。やむを得ない事例については、家族様相談の上、一日でも早く解除できるように取り組み、毎月確認し評価をしている。	ユニット間はドア一つでつながり、利用者同士交流している。屋上庭園は夜以外は常に開放している。エレベーターは簡単な操作で利用できる。法人内研修で身体拘束について学び、周知徹底を図っている。やむを得ない事例に対しては家族と相談の上、早期解除できる様に取り組んでいる。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内研修でも取り組み周知徹底を図っている。(ベテラン職員はもちろんの事、新人の職員も研修には参加をしよう)	「人権・虐待に関する研修」で虐待防止についての理解を図り、周知徹底に努めている。職員のメンタルヘルスにも留意している。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人内研修に参加し学ぶ機会を確保している。(特に、経験の少ない職員に対しては、必ず研修に参加を義務付けている)	権利擁護については法人内研修で学んでいる。以前、成年後見制度を利用されている方がおられ支援の経験はある。今後、制度に関する理解と活用をはかれるように研修に参加して行く予定である。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、解約時また制度改正時に説明を行い、入居者、家族様が理解納得をして頂けるように説明を行っている。日々の暮らしの中でも質問を受け付けています。	契約前に朝・昼・夕の3時間帯の見学をして頂いている。契約時には家族協力・退去事由、起こり得るリスクについても説明し納得して頂いてから契約して頂いている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年から「家族顔合わせ会」を法人から許可をもらい現時点で1度行いました。苦情だけではなく普段から疑問に思っていたことや職員に対しての感謝の言葉をもらい、皆様にとって素晴らしいグループホームにできるよう努めている。	面会時に家族から要望や意見を伺っている。運営推進会議に家族の代表に参加して頂いている。今年度開催の「家族顔合わせ会」では事業所24時間の流れをプロジェクターで紹介し、職員(リーダー)の参加の下、意見や要望を聞く機会となった。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ユニット内の申し送り、ミーティング、人事考課や全体会議において職員の考え意見を把握して運営に反映できるように努めている。	日常的にいつでも意見を言える環境作りに努めている。会議で職員の声、考え、意見を話し合い運営に反映するようにしている。誕生月の「あなたの夢をかなえます」も職員の意見が反映された一つである。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則の見直し、人事考課の活用、各委員会からの提言などを検討して繁栄できるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本年度から、施設内の会議室を19時まで開放し施設内でも勉学に励めるようにしています。また、研修委員会からの外部研修情報提供、役職者が得てきたものを伝える時間をつくっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設(グループホーム)へのボランティア参加や、意見交換、グループホーム見学などを行っている。(西宮グループホーム連絡会への参加も)		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	普段のコミュニケーションから、本人様の状態や要望を把握しケアプランを作成。当たり前前の事ですが、目線を合わせてゆっくりと分かりやすく会話をさせて頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談により現在のご家族様の要望などを把握してケアプランを作成。本音でお話をして頂けるように、聞かせて頂ける体制を整えている。(共感を大切に)		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み段階、事前面談において入居されるまでの間を安心して過ごして頂けるよう、現在の状況を確認し、必要と感じる内容についてはアドバイスなどを行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	行動指針の「生活者様と職員が共に生活という意識を持って心のこもったケアを提供します」を実践している。「できること」を大切に暮らして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人様、家族様、施設この三者が手を取り合い居心地の良い暮らしをしてもらえる形を作っていくことを入居時に伝える。その後も、家族様と連絡をとり(メールや電話)信頼関係の構築に努めている。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様の協力を得ながら手紙、電話、面会、外出などの支援を行っている。	家族の協力の下、お盆やお正月の他にも外泊されたり、家族旅行に行かれています方がおられる。学生時代の友人の来訪があり、事業所を「現在のご自宅」としておもてなしに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	生活者様の性格や行動パターンをしっかりと把握したうえで共に楽しく過ごせる関係作りを支援している。援助が必要な時と見守る場面の見極めをおこなっている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院している病院や、移動された施設に出掛けて様子を伺ったりはしている。退居された家族様の音楽ボランティアも継続している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「あなたの夢をかなえます」的なイベントを誕生日の方を中心に始めました。普段は、1対1でのコミュニケーションを大切にし思いを把握、職員間で情報共有をしている。	一対一の対話を大切に思いや意向の把握に努めている。誕生日に「夢を叶える」との趣旨で利用者の希望に沿って支援する取り組みを始めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談にて把握できてなかったことがないかを常に、家族様と連絡をとりながら情報確認をし、ケアに活かせるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	家事、日常生活における動作、レクリエーション、コミュニケーション等、あらゆる機会を通して現状把握に努める。		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃から、ケース記録において職員間で話し合いを持ち、原則半年ごとにケアプランを見直しカンファレンスを行っている。状態の変化に関わらずその方にあった環境づくりに力を注いでいる。	家族、担当職員、ケアマネージャと話し合い、利用者本人に納得いただける、柔軟で固定観念に捉われない介護計画の作成に努めている。家族の希望や意向は面会時にも、くみ取るようにしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常日頃から職員間のコミュニケーションのもと様子観察の内容や変化を報告、記録している。その日の状態に応じて介護を工夫し、ケアプランの見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	既存のサービスを基本とし、ご本人様そして家族様との話し合いによって、可能な対応を行っている。地域の社会資源の活用として地域行事(公民館)への参加による交流、ボランティア導入等もしている。		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買い物、散歩、外食や見学等、地域の豊富な社会資源を活用して生活の支援を行っている。		
30	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	原則として、往診対応をしている。通院についてはご家族様対応をお願いしている。眼科、歯科、皮膚科、整形外科そして心療内科も往診対応している。(24時間対応の医師もいる)	かかりつけ医については入居時に利用者、家族と相談して決めている。1ヶ月に1回医師の往診がある。受診の場合は1回目は必ず家族と共に職員が付き添うようにしている。二人の医師が24時間対応してくれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	併設特養の看護師が毎日フロア内を朝夕にラウンドして状態観察、健康管理をするともにオンコール体制も敷いて必要な対応を行っている。		
32	(15)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院に関しては、本人様の状態把握の為に、訪問を管理者のみならず職員もやっている。(病院の医療連携室との情報交換もしている)病院の相談員に、メヌエットの見学にも来てもらい理解を深めている。	入院時には、管理者と職員が面会に行き状態把握に努めている。日常的に病院の医療連携室のソーシャルワーカーとは連絡・相談に努め関係づくりを行っている。事業所に見学にみえる病院の医療ソーシャルワーカーが増えてきている。	
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応や看取りのお話しはさせて頂くが、現状の家族様方は、介護度3以上になれば特養への申し込みをされる方々が大半になっている。メヌエットが特養と併設していることから、グループへの希望者が増加している。	重度化対応や看取りについては入居時に説明している。重度化した場合は家族と相談して方針を決めている。併設の特養は重度化した場合の選択肢の一つとなっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習を受けていない職員は、法人内研修に必ず参加をしてもらい急変対応できるように取り組んでいる。また、24時間対応Drには指示を オンコール看護師にも指示を仰ぎ慌てないことを心掛けている。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練において避難訓練、消火訓練などを実施。津波避難ビルの指定も受けており、地域などの合同訓練も行ったこともある。(今年は、夜に火災時における避難訓練も実施した)	年2回消防署立ち合いの下、消防訓練において避難訓練(今年度は夜間想定)や消火訓練を実施している。津波避難ビルの指定を受けていることを地域の方に向けて頂き事業所についての理解を深めて頂くために地域との交流・連携を深めていきたいとしている。消防訓練のお知らせは近隣の方に伝え、保育園児も消防車見物にきている。	特養を中心とする複合福祉施設で、地域の拠点として、「津波避難ビル」に指定された。平常時・非常時の地域連携の在り方、非常災害物資のストック方法、利用者・地域住民との関わり等、一歩進んだ先取りした協力体制の構築に期待したい。

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	自由と尊厳を尊重するという行動指針に基づき日々の言葉かけや対応に気を配り、一人の人として節度を持って向き合っている。	人生の先輩、目上の人として、日々の言葉かけや対応に気を配っている。その人らしさを大切にして尊重とプライバシーを損ねないケアに努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	目線を合わせ、ご本人様からの言葉を待つ姿勢を大切にしています。職員の考えを押し付けることなく自らがどうしたいのかを決めるよに工夫した言葉かけを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床、食事時間も基本は、その方々のペースに合わせています。1日の始まりには、今日は何をさりたいのかを確認し、その方に合わせた支援を大切にしている。職員の休憩時間も出勤している職員で考え対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、身だしなみに必要な化粧品を購入することもある。朝夕の更衣、入浴時にも本人様に衣類は選んでもらっている。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭にある畑で収穫した野菜をつかい御飯の一品を調理したり、厨房から毎食上がってくるおかずも取り分けている。	ご飯と汁物は各ユニットで作り、おかずは特養の厨房から上がってくる。お米とぎや調理(特別メニュー時)や配膳、後片付け等を利用者と職員が一緒に行っている。2か月に1~3回は外食に出掛けている。リスク委員会の誤嚥の研修では介助される立場での食事を体験している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取量は毎日チェックさせて頂いている。また、その方の状態に合わせた摂取方法も検討している。体重測定、採血の結果をもとに往診主治医に指示などを受けたりもしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科診療と連携をして口腔ケアを行っています。自歯や義歯の状態、舌苔の有無、口臭を確認して必要となる援助を行っている。また、医師から職員にレクチャーもある。(歯磨き、ケアの仕方など)		

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを職員間で把握している。(トイレ案内や排泄時の援助)夜間も臥床状態でのパット交換は極力避けています。なるべく、本人様にトイレに行ってもらえるよう言葉かけを工夫している。	排泄チェック表で個々人の排泄パターンを把握しトイレでの排泄を支援している。夜間のみ希望によりポータブルトイレを利用される方もおられる。トイレ誘導の際の言葉かけや対応に配慮し、自立を目指した排泄支援に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動はもちろんのこと、水分摂取に気を配り、ヨーグルトやヤクルトなどの提供をさせて頂きながらなるべく薬に頼らないようには取り組んでいる。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の意向を尊重し、どうしても夜間と言われる方へも安全面を配慮して行っている。また、たまに気分を上げてもらう為に、1階の大浴場を利用している。	週2~3回、午後入浴となっている。夜間(夕方)の入浴にも対応している。1階併設施設の大浴場を時々利用頂きリラックスしていただいている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間帯は、生活者様達のその日の状況を確認しながら言葉かけをさせて頂いている。日中も状態に応じて休んでも頂くようには言葉かけさせて頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬を把握したうえで、主治医への連絡や相談をしている。往診時には、職員が必ず立ち合い情報提供、質問等を行い理解に努めている。服薬変更時には、観察を徹底し主治医への報告をしている。(薬事情報はユニットでも保管)		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴、趣味を生かした楽しみを提供したりまた、職員が楽しいと思うことにも参加をして頂いている。嗜好品の購入をはじめ外出する機会を増やしています。その方にあつた家事全般もお願いをしています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご本人様の希望や気分転換を兼ねて外出を職員や家族様、そしてボランティアに協力をしてもらいながら行っている。地域で行われる行事イベントにはなるべく参加できるようにシフトも組んでいる。	個々人の希望に沿って外出して頂いている。季節の変化を感じて頂くための外出(花見や花火見物等)では職員のシフトを工夫して出掛けている。美術鑑賞や人形芝居等地域の利用できる施設を活用している。今後、遠出の日帰り旅行を実施したいとしている。	

自己	三者	項目	自己評価	第三者評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や飲食を伴う外出時に、本人様が支払いを行うように援助はさせて頂いている。ご家族様から了承頂いた場合には、現金を所持されている方もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族様への了承を得て、お子様や親類の方々への手紙やハガキ(年賀状)を出している。(必要に応じては代筆を職員がすることも)電話をかける場合は、はじめから本人様で対応する場合、職員が一言言ってから代わる場合もある。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	BGMやテレビの音量を調整、空調も季節、その日にあった室温に設定するよう心掛けています。落ち着いて歩いて頂けるように通路には不要になるものは置かず、生活者様と職員で話をしながらディスプレイを決めている。	居間は広くゆったりとしたスペースとなっている。共同制作によるちぎり絵や行事の思い出の写真が貼られている。居間と離れたエレベーターホールにくつろぎの場所としてソファが設置されている。屋上庭園からは六甲の山々が眺められ、木々、花々、野菜が植えられ季節の変化を感じることができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室に慣れ親しんだ物を置いて頂く様にしている。食事席に関しても、基本みなさんで選んでもらい、エレベーターホールにソファを置いて寛いで頂けるようにも工夫している。		
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時、そして暮らしの中で馴染みのある物や家具を置いて頂くことを自由にして頂いている。部屋に写真や思いでの物を置いていただき居心地の良い空間となるように家族様の協力を得ながら工夫している。	洗面台、チェスト、ベッド、エアコンが設置されている。家族の希望も取り入れて利用者と職員と一緒に居室づくりをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ここでの暮らしに慣れて頂く馴染んでもらえるように配置やセッティングを考え、皆さんが使いやすい様に暮らしやすい様にしていくことを心掛けている。		

## 基本情報

事業所番号	2890900109
法人名	社会福祉法人 兼誠福祉会
事業所名	グループホームメヌエット
所在地	西宮市浜脇町4-33 (電話)0798-38-2201


### 【情報提供票より】(平成29年7月1日 事業所記入)

#### (1)組織概要

開設年月日	平成 20 年 6 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 名
職員数	16 名	常勤 12 名 非常勤 4 名	常勤換算 12.9 名

#### (2)建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り 5階建ての 5階部分
------	--------------------------

#### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	116,000 円	その他の経費 水道光熱費 27,000 円/月		
敷 金	無	教養娯楽費 実費		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	500 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

#### (4)利用者の概要(平成29年7月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	9 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86.6 歳	最低 77 歳	最高 94 歳		

#### (5)協力医療機関

協力医療機関名	谷向病院 西宮回生病院 ヒカリデンタルクリニック
---------	--------------------------

(様式2(1))

事業署名 グループホームメヌエット

## 目標達成計画

作成日: 平成 29年 8月16日

目標達成計画は、自己評価及び第三者評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域(大人の方々)交流、関係を築いていく必要がある。	津波避難ビルの指定を受けているので、地域との信頼を築いていく。地域と共に何か意味のあるイベントを作っていく。 (合同避難訓練や施設内での喫茶開店などで地域住民の方々人間関係をつくる)	施設として平成29年8月から「地域交流会議」を立ち上げました。来期に向けて、何を当施設から発信し地域住民の方々との信頼関係を構築していくかを考えていきます。	12ヶ月
2	10	「職員の定着率が低い」が生活者様とその家族様へ不安を与えている。	職員として働きやすい(働き甲斐のある)職場の環境整備をしていく。 定年までメヌエットでを目標に。	・福利厚生や手当など職員へ形として残せるものを施設と考える。 ・研修や勉強会等に参加していく。(実践者研修、認知症ケア) ・管理者として今以上に職員とのコミュニケーションをとり職員個々へのメンタルケアに努める。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。

(様式2(2))

## サービス評価の実施と活用状況(振り返り)

サービス評価の振り返りでは、今回の事業所の取り組み状況について振り返ります。「目標達成計画」を作成した時点で記入します。

【サービス評価の実施と活かし方についての振り返り】	
実施段階	取 り 組 ん だ 内 容 ( ↓ 該当するものすべてに○印 )
1 サービス評価の事前準備	<input type="checkbox"/> ①運営者、管理者、職員でサービス評価の意義について話し合った
	<input type="radio"/> ②利用者へサービス評価について説明した
	<input type="checkbox"/> ③利用者家族へサービス評価や家族アンケートのねらいを説明し、協力をお願いした
	<input type="radio"/> ④運営推進会議でサービス評価の説明とともに、どのように評価機関を選択したか、について報告した
	<input type="checkbox"/> ⑤その他( )
2 自己評価の実施	<input type="checkbox"/> ①自己評価を職員全員が実施した
	<input type="checkbox"/> ②前回のサービス評価で掲げた目標の達成状況について、職員全員で話し合った
	<input type="radio"/> ③自己評価結果をもとに職員全員で事業所の現状と次のステップに向けた具体的な目標について話し合った
	<input type="radio"/> ④評価項目を通じて自分たちのめざす良質なケアサービスについて話し合い、意識統一を図った
	<input type="checkbox"/> ⑤その他( )
3 外部評価(訪問調査当日)	<input type="radio"/> ①普段の現場の具体を見てもらったり、ヒアリングで日頃の実践内容を聞いてもらった
	<input type="radio"/> ②評価項目のねらいをふまえて、評価調査員と率直に意見交換ができた
	<input type="radio"/> ③対話から、事業所の努力・工夫しているところを確認したり、次のステップに向けた努力目標等の気づきを得た
	<input type="checkbox"/> ④その他( )
4 評価結果(自己評価、外部評価)の公開	<input type="checkbox"/> ①運営者、職員全員で外部評価の結果について話し合った
	<input type="checkbox"/> ②利用者家族に評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="checkbox"/> ③市区町村へ評価結果を提出し、現場の状況を話し合った
	<input type="radio"/> ④運営推進会議で評価結果を報告し、その内容について話し合った
	<input type="radio"/> ⑤その他( 評価結果を職員に公開して話し合いを行った。評価結果等は西宮市に提出予定。 )
5 サービス評価の活用	<input type="checkbox"/> ①職員全員で次のステップに向けた目標を話し合い、「目標達成計画」を作成した
	<input type="radio"/> ②「目標達成計画」を利用者、利用者家族や運営推進会議で説明し、協力やモニター依頼した(する)
	<input type="radio"/> ③「目標達成計画」を市町村へ説明、提出した(する)
	<input type="checkbox"/> ④「目標達成計画」に則り、目標をめざして取り組んだ(取り組む)
	<input type="checkbox"/> ⑤その他( )